

ソーシャル・キャピタルと地域特性を考慮した防災対策の検討

○ 中央大学 学生会員 井上 麻子
中央大学 正会員 佐藤 尚次

1. はじめに

近年、地域コミュニティの希薄化によって地域防災力が低下したと考える人は増加している¹⁾。また、阪神淡路大震災では、倒壊家屋の下敷きになって救出された人のうち、8割は家族や近隣住民によって救出されたと報告されている²⁾。地域のつながりがあることによって救助活動や避難行動が円滑になると考えられることから、災害時における地域コミュニティの果たす役割は大きいと言える。

地域の状態や結びつきを表す指標として、「ソーシャル・キャピタル（以下 SC）」がある。SC とは、信頼、互酬性の規範、ネットワークからなる社会的仕組みであり、最近では、SC は防犯や健康の増進、失業率の抑制に役立つとして注目を集めている³⁾。

そこで本研究では、SC を地域のつながりを表現するための指標のひとつとみなし、公立小中学校区域程度の範囲の地域における信頼関係および互酬性をもつ人々のネットワーク密度を表すと定義する。そして、地域特性ごとの防災意識と SC を評価することによって、地域特性に応じた防災政策および地域コミュニティ活性化に向けた提言を行うことを目的としている。

2. 研究の方法

人々の防災意識と SC を調査するためアンケートを

行う。子どもは地域のつながりを作るきっかけになりやすいことから、本研究では子どもを通じた地域の希薄化に着目し、調査対象を教育に関して先進的な政策を実施している品川区の小学校の保護者とした。

また、アンケートを作成するための資料として、SC と防災意識の全国的な傾向と現状を把握するため、全国を対象とした統計データを分析した。

3. 全国データの分析

内閣府が SC を定量的に評価し指数化した「SC 総合指数³⁾」と人口密度との関係を図-1 に、世帯数に占める自主防災組織の活動範囲を表した自主防災組織カバー率⁴⁾と都道府県別人口に占める高齢者割合との関連を図-2 に示す。これらの結果から、人口過密地域では SC が低く、高齢化の進んだ地域では自主防災組織カバー率が低い傾向があることが明らかになった。

4. アンケートの作成

アンケートの構成は、防災意識に関する質問・地域のつながりに関する質問・子どもを通じた地域のつながりに関する質問・個人特性とした。

事前調査として、設計工学研究室のメンバーや家族・友人等を対象にアンケートを実施し、47 の回答を得た。この結果をもとにアンケートを修正し、本調査を行った。

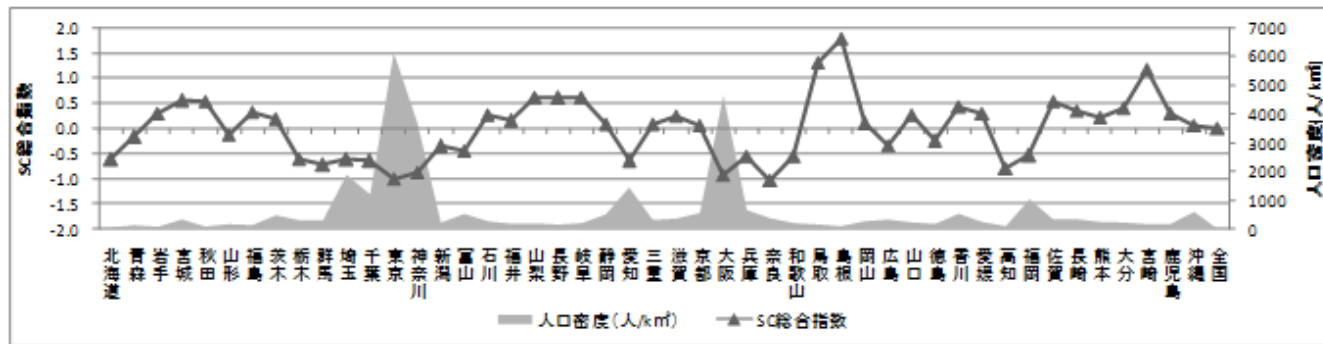


図-1 SC 総合指数と人口密度との関連

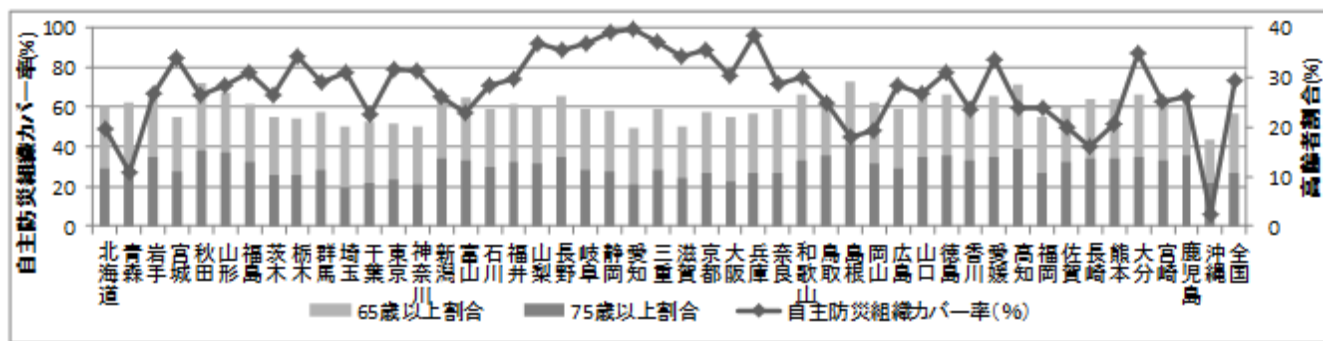


図-2 自主防災組織カバー率と高齢者割合の関係

キーワード : 防災, ソーシャル・キャピタル, 地域コミュニティ

連絡先 : 〒112-8551 東京都文京区春日 1-13-27 tel. 03-3817-1816

5. 調査結果と考察

品川区の芳水小学校の保護者に対しアンケートを実施した。回答数は238、回収率は85%であった。

5.1. 防災意識に関して

表-1 に示すように、家族で集合場所を決めている人は4割に満たず、防災訓練・教室等に通っている人はほとんどいなかった。また、8割近くの人が公の防災訓練に参加したことがなかった(図-3)。事前調査でも同様の傾向が見られ、防災対策は不十分といえる。

5.2. SC・地域のつながりに関して

図-4 に全国データ¹⁾、事前調査、本調査における近所づきあいの程度を示す。事前調査では対象者の居住地域が東京都を中心に広域に及ぶため、全国データに近い傾向がみられる。一方、本調査では全国データに比べてつきあいの程度が深いという結果が明らかになった。SCのうち「ネットワーク」に着目すれば、本研究で調査を行った地域のSCは高いと言える。原因として以下の点が挙げられる。

- ・地域のつながりのきっかけとなる子どもがいる人を対象に調査を行ったため。
- ・古くからの住宅街であり、回答者の約半数は居住年数が10年以上であるため。
- ・子どもがいる人はSCの他項目「信頼」「規範意識」が高いと考えられるため。
- ・回答者の9割近くが女性であるため。女性の方がSCは高い傾向にあることがすでに報告されている¹⁾。

さらに、近所のつながりに関して、「近隣のお年寄りの手助けをしたいが、どこまでふみこんでよいかわからない」「お年寄りと若い人が意見を言い合える関係が出来れば良いと思う」等といった意見をいただいた。地域のつながりを大事にしようという意識は持っていても、個人主義的な社会の風潮によって、なかなか行動できないという現状が明らかになった。

5.3. 子どもを通じた地域のつながりに関して

地域のつながりは約8割の人が「PTA・保護者の集まり等、子どもを通じて」生まれると回答した(表-2)。また、品川区では学校選択制を導入しているが、これに関して「学校選択制を利用して他学区から入学したら、住んでいる地域の反感を買ってしまった」という意見があった。学校選択制による地域のつながりの希薄化と、地域愛着がもたらす排他性の二つの問題があると考えられる。

6. 今後の課題

- ・個人主義的な風潮や地域愛着による排他性といった問題があるため、地域コミュニティのありかたについても議論する必要がある。
- ・地域ごとのSCの特徴や防災対策の現状を明らかにし、地域防災力向上に向けた提言につなげていきたい。

表-1 家庭で行っている防災対策

選択項目(複数回答)	人数	構成比
非常持ち出し袋、水等の貯蓄	124	52%
家具などの転倒防止	97	41%
家族で集合場所などを決めている	94	39%
地域の防災訓練等に通っている	12	5%
その他	3	1%
対策をとっていない	43	18%
無回答	3	1%

表-2 地域のつながりが生まれるきっかけ

選択項目(複数回答)	人数	構成比
PTAの集まり等、子どもを通じて	187	79%
顔を合わせる機会が多いと自然に	158	66%
地縁的な活動を通じて	110	46%
ボランティア・趣味等を通じて	27	11%
その他	3	1%
無回答	2	1%

市区町村や消防署が主催する地区総合防災訓練に参加したことがありますか

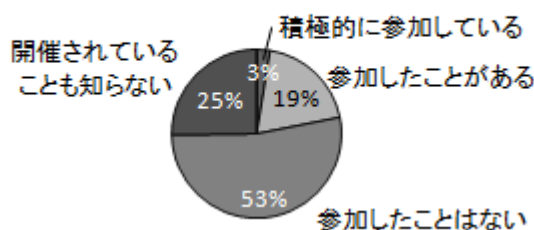


図-3 防災訓練への参加（本調査）

近隣の住民と日常的なおつきあいをしていますか

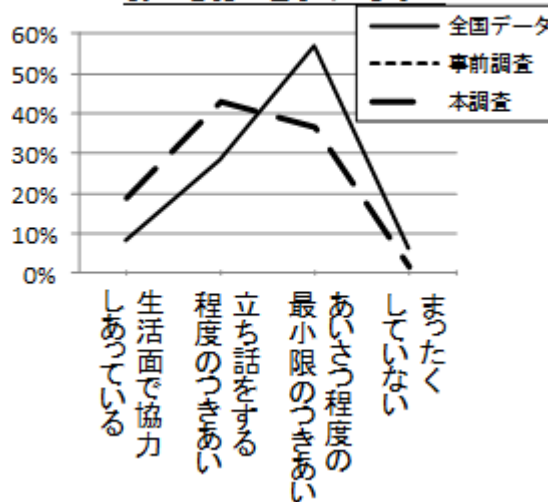


図-4 近所づきあいの程度

<参考文献>

- 1) 内閣府 国民生活白書「つながりが築く豊かな国民生活」2007.6
- 2) 内閣府 防災白書 平成22年度版
- 3) 内閣府 NPO「ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係を求めて」2003.6
- 4) 消防庁 消防白書 平成21年度版